



校章の由来

県立三中を意味した三つの剣を組み合わせ、初代大屋校長の考えで剛健・真剣・勤儉の三けん、更に智・仁・勇の三徳を兼ねた象徴として用いられて来た

厚高同窓会報

<第50号> 2016年(平成28年) 5月1日(日) 発行
http://www.atsukou-dousou.org

旧制中学卒業生 3,915名
新制高校卒業生 26,414名
合 計 30,329名

発行
神奈川県立厚木高等学校同窓会
編集
厚木高等学校同窓会広報委員会
TEL 046 (221) 4078
FAX 046 (222) 8243



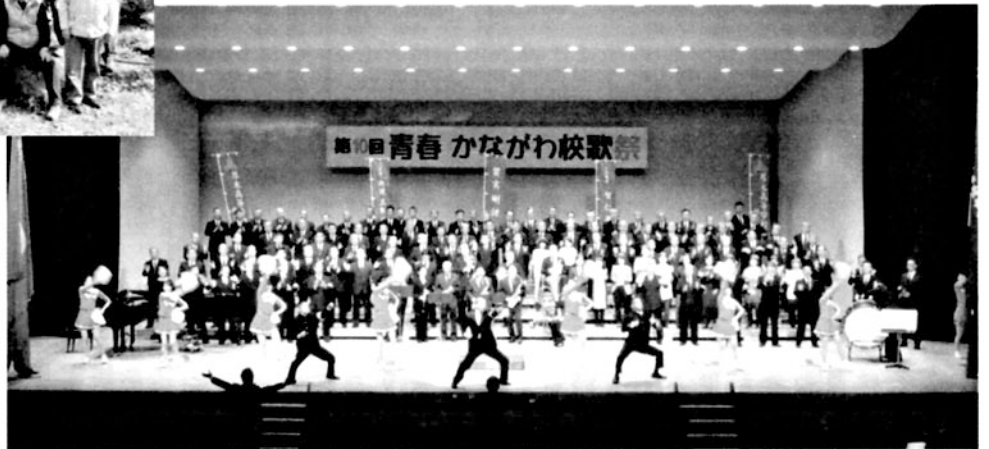
▲母校正面玄関の左手に平成6年、高9回生が寄贈したハナモモが今年も見事に咲いた (関連記事6面)

▼「名取裕子(高28回)の朗読劇」は、同窓会の新事業の1つ(詳細3面)



▲毎年盛大に開催されている「地引綱大会」(5月4日)
◀山の恒例事業として定着「懐い出の杜に親しむ会」(11月21日、詳細7面)

▼「第10回青春かながわ校歌祭」での厚高同窓会は見事な演出で他校を圧倒(10月17日、記事2面)



更なる飛躍へ挑戦



同窓会会長 曾根 秀敏(高14回)

就任2年目となりました今春3月1日、母校の第68回卒業式に出席し、355名の卒業生にお祝いと同窓会入会への感謝を申し上げるとともに、名譽ある「茅賞」の贈呈をして参りました。

卒業生が源として入場する場面。実力を誇る吹奏楽部が奏でる「威風堂々」の曲が伝統の「賀実剛健」の校風を彷彿させ、真に感動的で、輝かしい伝統を継承する相州健児の旅立ちを、何とも言葉ぬき昂揚感に浸りながら、感慨深く見守っておりました。母校の卒業式は、同窓会の充実、とりわけ母校発展への寄与の思いを一層強くさせられる場面でもあります。

さて、これまで各支部の総会や様々な行事に出席させていただいき、改めて驚くほどに広範で多彩な活動を実感してまいりました。就中、支部活動の充実ぶりには感嘆させられること頻りで、綾瀬戸陵会の再始動や新たな支部結成の動きなどもあり、ますますの拡がりが見られることは嬉しい限りです。

部活動OB会や同期会の活発さは言うまでもありませんが、この多様で個性豊かな26支部の集合体こそが、他に例を見ない厚高同窓会の特色であり、誇るべき大きな財産であります。本部と支部の「連携強化」を運営の基本とする所以は、此処にあります。

事業面に目を転じますと、本部事業である「懐い出の杜に親しむ会」と「地引綱大会」は、愛川、藤沢両戸陵会のご尽力で、「山」と「海」の主要事業としてしっかりと定着しておりますが、加えて母校の活動支援を目的とした「ゴルフ大会」が厚木連合戸陵会のお骨折りで、新たな事業として盛大にスタートしました。

恒例の第10回を迎えた「校歌祭」は、現役生、応援団・吹奏楽部OBの見事な指揮の下、ダンスドリル部OGも加わっての新スタイルが、厚高ならではの、との絶賛を博しています。また、名取裕子さんの「朗読会」も名女優の迫真の演技が感動を呼んだところであります。

思うに、先人から築き上げられ、培われてきた同窓会の「組織や「活力」は、「参加」があってこそ発展があります。魯迅の有名な言葉に「道は始めからあるのではない。皆が歩くから道ができる」があります。戸室ヶ丘を繕う多くの同窓諸士の参加(歩み)を請い、やがて後輩が歩むであろう同窓会の道を、しっかりと踏み固めて行きたいと存じます。更なる躍進へと挑戦を続ける母校と共に。

本部活動報告

平成27年度の主な事業報告

平成27年度は、同窓会相互の親睦と母校への支援をめざし、各種事業を積極的に展開した。厚木高校同窓会は、県内外26団体の支部組織に支えられており、このような組織体制は県内各同窓会から組織力、動員力が注目されており、こうした長所をさらに発展させるために、新たに県内支部において「支部長会」を組織し、各支部の活動状況等の情報交換を行い、支部相互の連携強化に努めることとなり、会議を重ねている。

27年度の事業は、藤沢戸陵会主管の「地引綱」をはじめ、愛川戸陵会主管の「懐い出の杜」や、各支部総会など多くの同窓会員の参加を得て、盛大に開催されたところであるが、特に次の2つの事業が装いも新たに展開された。まずは第10回の記念大会として開催された「青春かながわ校歌祭」である。昨年は、秦野高校同窓会の主管により秦野市文化会館で開催された。

例年、多くの参加者により県内各同窓会から注目を集めている厚高同窓会の迫力のステージは、弁論部OBの剣持典子(高26回)の歯切れのよい学校紹介に始まり、応援団OBや現役生徒の指揮のもたせられた。吹奏楽部OBのテンポの良い



ダンスドリル部と吹奏楽部OBも生出演

ドラムマーチが流れる中、応援歌・校歌をメドレー形式で斉唱した。特に第10回の記念大会に併せて新たに8名のダンスドリル部OBが華やかにステージに登場し、すばらしいパフォーマンスを披露してくれた。

校歌斉唱後、会場からは感動の「ため息」ともとれる静寂のあと、大きな拍手が沸き起こり、厚木高校の伝統と多彩な人材を有する同窓会活動の一端を、会場内の県内



曾根会長、荒川教頭もそろって記念撮影に

各同窓会関係者にご理解いただけたものと考えている。

当日の様子(動画)は、その後同窓会HPにもアップされてあの感動を噛み締めている同窓生も多くあると推察している。また、夏の練習会も例年になく回数を重ね熱心な指導に当たっていただいた応援団OB会の皆さんや、終了後の懇親会を主管していただいた秦野戸陵会員の皆様には、深甚なる感謝を申し上げます次第である。次の事業は、名取裕子(高28回)が主演する「朗読会」開催事業である。

曾根新体制の新たな事業として厚木高校同窓会に所属する豊富な人材を地域社会の発展に還元する社会貢献活動として、平成27年12月12日(土)に厚木市文化会館にて実力派女優として第一線で活躍している名取裕子(高28回)が主演する「朗読会」を開催した。

当日は、同窓生はもとより、市内外から多くの来場者が会場を埋め尽くし、迫力の演技に拍手喝采、閉幕後も記念写真の列が絶えることなく、好評のうちに事業は終了した。

現在同窓会では、委託会社とともに新たな同窓会名簿作成業務を展開しております。同窓生の皆様には、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

本部・支部会総会のお知らせ

本部は6月26日(日)

平成28年度同窓会通常総会及び懇親会を次の通り開催します。

日時/6月26日(日)

午後1時30分より

会場/レインプラントホテル厚木

講師/安藤昭一(高21回)

演題/「面白分子生物学」

懇親会会費/4000円

〈支部会総会開催予定〉

相模原戸陵会

4月23日(土) 午後4時

会場/あじさい会館

玉川森の里戸陵会

5月8日(日) 午後5時

会場/広沢寺温泉玉翠楼

伊勢原戸陵会

5月14日(土) 午後3時

会場/こみや

綾瀬戸陵会

5月21日(土) 午後5時

会場/大和市・北京飯店

平塚戸陵会

5月29日(日) 午前11時

会場/グランドホテル神奈中平塚にて

依知戸陵会

6月17日(金) 午後6時30分

会場/福助本店

愛川戸陵会

6月18日(土) 午後2時

会場/大進館

関西戸陵会

6月19日(日) 午前11時

会場/ホテルグランヴィア大阪

厚木連合戸陵会

7月17日(日) 午後2時

会場/元湯旅館

秦野戸陵会

11月12日(土) 午後4時

会場/やなぎや

本年度の主な事業計画

▼第16回地引綱大会

日時/5月4日(水) 午前10時

場所/鶴沼海岸(旧小田急鶴沼プールガーデン隣り)

会費/3000円(子供無料)

▼第1回最先端医療講演会

主催/南毛利戸陵会

協賛/厚木高校同窓会 他

後援/厚木市教育委員会 他

日時/6月19日(日) 午前2時

場所/南毛利公民館、入場無料

①「最新の抗加齢医学・予防医学の実態」内山順造(南毛利内科 抗加齢人間ドックセンター 院長。高33回)

▼第2回厚高同窓会チャリティゴルフコンペ

開催/11月14日(月)

会場/本厚木カントリークラブ

主催/厚木連合戸陵会

▼第8回懐い出の杜に親しむ会

開催/11月19日(土)

主催/愛川戸陵会

秦野戸陵会から

校歌祭参加の御礼

平成27年10月17日(土)、秦野市文化会館を会場に開催された「第10回青春かながわ校歌祭」は、ダンスドリル部OBの初参加もあって、他校にない統率美とともに大変盛り上がった演技となりました。

「盛り上がった」と云えば、出演後の懇親会もまたそうでした。一昨年の私達「秦野戸陵会総会」で発意した「開催地、秦野での懇親会の開催」を快く受け入れて下さった同窓会本部役員の皆さん、応援団OB会の皆さんを始め、当日ご参加の同窓生の方々とも、楽しいひと時が過ごせた事を秦野戸陵会一同、心から御礼申し上げます。

ご案内の為に作った「スタッフ、ジャンパー」も白髪頭に少しは似合ったのでしょうか、思いのほか好評で驚いています。

これを機会に、馴染みの薄かった方々も少しは秦野の地を身近に感じて頂き、またおいで下さる事を期待しております。

谷茂会長(高22回)を先頭に、秦野戸陵会メンバーも各支部の活動に参加させて頂きながら、交流と親睦を図って行けたらと感じております。

最後に、楽しかった「青春かながわ校歌祭」に毎回参加している川口真司さん(高24回)から厚高時代の甘酸っぱい思い出を寄稿していただきましたので、ご紹介いたします。広報委員 古屋一恵(高28回)



秦野戸陵会の「おもてなし」で盛り上がった懇親会



漫画家・作家・評論家・コメンテーター・タレント
歌手・版画家・着物デザイナー等と幅広く活躍中!
「私、全然躊躇しませんから♡」

さかもと未明(高36回)

わたくし、実は厚木高校時代にあんまりイイ思い出、なかったんです。小中学校時代は体が弱いものの、神童といわれたこともあったくらい勉強のできる子供で(笑)。でも神奈川中の神童が集まる厚木高校には、神童な上に心も体も丈夫な人たちが山ほどいました。私はあつというまに、毎年の進級を危ぶまれるような落ちこぼれとなり、当時としては時代の先端を行く「保健室登校」が常態生徒に。居場所、なかったなあ(涙)。

でも、だから「社会に出たら巻き返したい」と、頑張ったところもあつた気がするんです。漫画家となり、夜も寝ずに働いているうちに、だんだん「厚木高校出身」のアーティストさんや、業界の先輩方にちよこちよこ会えるようになってきたんです。そうすると皆さん、ものすごくやさしくしてくださって、すごく世界が広がりました。たとえばサックス奏者の平野公崇さん(高44回)には其演いただいたり、楽曲提供いただいた

り、扉座の横内謙介さん(高32回)には公演に呼んでいただいたり、あ、同級生の大口さんが新聞社に勤めていてインタビューに来てくれたりもしました!そしてなんとたまたま執筆させていたいただいた産経新聞の新社長の熊坂隆光さん(高19回)は厚木高校出身!「先輩♡」とお願ひしたからか、結婚式にまでいらしていただきました!いやもう自慢です、厚木高校出身で良かったあ(感涙)。

その後、仕事を張り切りすぎて難病になったときも、いろんな方に良くしていただきました。なんていうんでしょ、結局優秀な方って、ハートの偏差値も高いっていうか、優しい!あと、発想がイイ!気が利く!話早い!みんな頑張ってるからそれぞれ本当に活躍している!

「厚木高校同窓生」であることから、卒業して何十年もたつてからこそ、その間にお互いガンバって再会してこそ光るんだなあ、とつくづく思っています。このつながりは、やはり無駄にしちゃいけないよ、やはり無駄にしちゃいけないよ、勤剣、真剣、剛剣の三K教育、思い出します。やはりその精神をずっと持ち続けてくださいね。せっかく優秀な同窓生が各業界においてでなければ、みんなで仲良く癒着、じゃなく連携!協力!

さくら戸陵会では昨年12月12日に厚木文化会館の会議室で第3回目の総会を開催し、40人の参加がありました。ご来賓として曾根秀敏同窓会会長と荒川憲行教頭(高33回)の挨拶をいただいたのち無事審議を完了しました。今までの総会は、バスを貸切り三柄邦博氏(高19回)の講演とスカイツリー見(高19回)の講演と社内見学など部内での開催をしてきましたが、今回は地元厚木で名取裕子さん(高28回)のリーディングドラマの上演と併せての開催となりました。公演は昨年春から準備を始め、宣伝チラシやポスターの作成、チケットのラシ配などあわたたしく半年が過ぎました。直前までチケットの売れ行きに気を使ひ、たくさんの方に声をかけることとなりましたが、これをきっかけに、さくら戸陵会への参加会員も増えた

名取裕子(高28回)の朗読劇上演

同窓会理事 山本 智子(高28回)

さくら戸陵会では昨年12月12日に厚木文化会館の会議室で第3回目の総会を開催し、40人の参加がありました。ご来賓として曾根秀敏同窓会会長と荒川憲行教頭(高33回)の挨拶をいただいたのち無事審議を完了しました。今までの総会は、バスを貸切り三柄邦博氏(高19回)の講演とスカイツリー見(高19回)の講演と社内見学など部内での開催をしてきましたが、今回は地元厚木で名取裕子さん(高28回)のリーディングドラマの上演と併せての開催となりました。公演は昨年春から準備を始め、宣伝チラシやポスターの作成、チケットのラシ配などあわたたしく半年が過ぎました。直前までチケットの売れ行きに気を使ひ、たくさんの方に声をかけることとなりましたが、これをきっかけに、さくら戸陵会への参加会員も増えた

ことほうれしい限りです。中休みを入れた約2時間半の公演は、渡辺淳一原作『女優』をもとに、松井須磨子の愛と舞台に生きた半生を朗読劇に仕立ててありました。ここで名取さんの歌声を聞いたのは予想外です。また舞台で使用した和服はこだわりの物を着用したと後で聞きました。リハーサルを少しのぞかせてもらいましたが、広い舞台を名取さん一人きりで仕切る緊張感に驚き、一口の世界の厳しさを垣間見たような気がしました。

同窓会の事業としてこの公演をやりに送るには、素人の私たちがどのように関わるかを手探りの中ですすめてきました。おかげさまで文化会館小ホールは満席となり、会場のおちろちろで同窓を懐かしむ挨拶が交わされていたようです。関係された多くの皆さんのご協力あつたことと感謝いたします。

終了後、同期でささやかな宴を持ちましたが、卒業して早くも40年もの時の流れのなかで、当時と変わらないそれぞれの個性を再度確認できたのもいい思い出となりました。

さくら戸陵会は女性の同窓生の集まりです。一度に全員へのお声掛けが出来ないため順にお知らせをしています。今年高27回の方を中心にご案内を送付する予定です。是非この機会にご参加いただけますようお願いいたします。

KAN-KAI
ZAI-KAI
SEI-KAI
3K(三剣)の絆をアートにより強くズブズブに固めます!!



政 財
広げよう! 癒着 仲間の輪!
さくら戸陵会 改革!

<さかもと未明 / Mimi Sakamoto プロフィール>

1965年、横浜市生まれ。厚木高校、玉川大学英文科卒業。1989年漫画家デビュー、皮膚感覚から得られる独特の官能世界を描いて話題に。その後、作家、評論家、コメンテーター、タレントなど活躍の場を広げるが、2006年に難病である膠原病を発症。「絵が描けなくなる可能性が高い」と宣告され、「身体が動かなくなっても人の心に届く活動がしたい」と、歌手としての活動を開始。2009年に「いのち〜人生〜」(ランプリングレコード)で歌手デビュー。2012年に「la magie de l' amour」(24 JAZZ JAPAN)でジャズ歌手としての本格デビューを果たす。独特のウィスパーヴォイスは「モルヒネヴォイス」と呼ばれ、特異な世界観でファン層にアピールした。その後病状は一進一退。長期入院中に始めた版画が2015年春に東京都美術館で開催された「第12回バドナ・アート展」に招待展示され、評判を呼ぶ。版画家としては、この不忍画廊での企画展が本格的なデビューとなる。今夏に都内での個展が予定されている。主な著書に、SHOWCASE (MIMEIDIA)、神様はいじわる(文藝春秋)、マンガ「ローマ帝国の歴史」1〜3(講談社)。まさか発達障害だったなんて(PHP研究所)、私の居場所はここにある(海竜社)。また主なCDは、La magie de l' amour (24 JAZZ JAPAN)、青い伝説 (24 JAZZ JAPAN)。また、2013年に引き振袖「美麗」を発表、着物デザイナーとしてもデビューする。その作品はホテル椿山荘東京のTAKAMI BR IDALでレンタル商品とされている。

すれば、今の行き詰まり感満載の日本を変へることも不可能ではないんですかと思わなければなりません。厚高出身であることを本気で誇りにしつつ、私はアートの力で各界をつなぎ、明日の日本を作る一助をなしたいなど真面目に思っているあたりに、私に出来ることあれば、どうぞ皆さんいつでもお声がけくださいませ〜!いきものがかりさんにお声がけいただけたら、一緒に武道館で歌うことも、全然躊躇しませんから♡



終演後は、何組かに分かれて記念撮影

学校情報

4月1日付けの人事異動により、赤井英明副校長が多摩高校、荒川憲行教頭(高33回)が横浜国際高校に転任され、新たに藤原敬子副校長(湘南高校定時制)と加藤一彦教頭(相模原青陵高校)がそれぞれ着任されました。

また、同窓会の校内役員として永年お世話になった吉垣武先生(高39回)が厚木商業高校に転任されました。新聞部顧問の吉垣先生には、同窓会報の発行に際しても、資料・写真の提供に協力いただき、お礼申し上げます。

この一年をふり返って



校長 佐藤 信行

平成27年度は、前年度の進学実績が振るわなかったことから、肩身の狭い、厳しい雰囲気の中でスタートとなりました。人前では何も気にしていない素振りをしていましたが、心の中では「今に見ていろ、必ず見返してやる」と叫んでいました。それでも、受験のためだけの勉強はさせたくありませんので、厚木高校のSSH事業の根幹である「自ら課題を発見し、自ら解決する力」を身に付けさせることを目指しました。おかげさまで、今年度は昨年度よりも難関校の合格者数が若干増えたので、少しほっとしております。

で、厚木高校に対する印象が一気に良くなり、親密さが増しました。このように同窓会の皆様には、事あるごとにご支援に甘えさせて頂き、心より感謝いたしております。最後に、昨秋の「思い出の杜に親しむ会」では、照手紅、照手桃、照手白の植樹を行いました。本校敷地内には20年ほど前に植えられたものがあり、毎年素晴らしい花を咲かせています。思い出の杜に白、紅、桃色のきれいな花が咲くのを楽しみにしています。

第48回 茅賞

剣道部部長の森谷敦司さん



「自分を律する大切さ」

茅賞は、本校卒業生で元東大総長の茅誠司が文化勲章を受章した際

に設立された。卒業生の中で、学業、部活動人物など、全般的に優れた人物一名に贈られる賞である第48回目となる今年度の受賞者は森谷敦司さん(31)だ。今回の受賞について「光栄だが、優秀な人が多い中、自分でよいのかと戸惑った」と謙虚に話した。弓道部の部長を務めた森谷さん。落ち着いた印象だが、感情の起伏を外に見せないよう努力していたという。「負の感情は部員の動揺をまねく。弓道は自分と向き合う武道。他と競うことよりも、自分の甘さを許さないことが大切だと学んだ。また、他の人の支えなしでは今回の受賞はなかった」と感謝を述べた。

『厚校新聞』第252号(28年3月1日)より

平成27年度 部活動大会実績(県大会ベスト4位以上)

Table with 6 columns: 部活動名, 受賞日, 具体的名称, 種目・団体, 大会レベル, 成績. Lists various sports and cultural activities with their respective dates, names, categories, and achievements.

厚木高校着任にあたって



副校長 藤原 敬子

4月1日付で湘南高校校定時制より着任いたしました。

「厚木高校」という異動先をいただいたとき最初に感じたのは、一県立高校というより「厚木高校」という重みでした。110年の歴史と実績を重責と受け止める一方、厚木高校の教育・生徒たちの成長の場に立ち会えることに大きなやりがいを感じました。

初心に戻って



教頭 加藤 一彦

4月1日付人事異動で相模原青陵高校より着任いたしました。

私は同じ旧県央学区の高校で教員生活をスタートさせました。当時、同僚の新採用に本校出身の教員の方もおり、部活動等で本校生徒と交流する機会も多く、優秀な生徒・卒業生を輩出する学校であると感じておりました。あれから四半世紀以上経ちましたが、こうして勤務することができ、嬉しく感じると同時に、責任の重さを感じ、身の引き締まる思いでいつば

あの当時と現在では、世の中も大きく変化しておりますが、本校も、スーパーサイエンスハイスクール指定校としてグローバル教育の推進などさまざまな先進的な取り組みを行い、他校へ発信しております。このような取り組みを、生徒達が社会へ出てからのキャリアアップに繋げ、更に活躍できるような気持ちを初心に戻し、尽力してまいりますので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

部活動等ダイジェスト

「軽音楽部」

「いきものがかりに続け」とばかりに、厚高の部活で今一番勢いのある軽音楽部(小松久子顧問、部員数75人)。

昨年8月、「あつぎミュージックフェスティバル・新人バンド発掘オーディション」で、軽音楽部1年生5人組ガールズバンドのORO、E.YO(クリアルム)がグランプリを受賞。12月19日には同フェスティバルのオープニングアクトで演奏した。

11月22日、滋賀県豊郷町で開かれた第5回とよさと軽音楽甲子園で、2年生バンド「SO」が全国準優勝と滋賀県知事賞を獲得。

11月30日、相模原市民会館で開かれた高等学校総合文化祭軽音楽コンクールで、2年生バンド「あまつかぜ」が準優勝に輝き、併せて教育長賞を受賞。

1月24日、新宿文化センターで開かれたWe are Sneaker Age 関東大会で2年生バンド「Advance RU(アドバンセル)」が準グランプリ校賞を獲得した。



2015(第21回)日本音楽合奏コンテスト

第21回日本音楽合奏コンテスト全国大会が開催され、吹奏楽部が2年ぶりに出場した。

また、4月30日に厚木市文化会館で第24回定期演奏会が行われた。

昨年11月14、15日に神奈川県立青少年センターで、第54回神奈川県高等学校演劇発表会が開催され、3位入賞を果たし、夏に行われるサマーフェスティバルへの出場が決まった。

11月3日に横須賀潮風アリーナで行われた県高校卓球新人大会で男子団体県ベスト16を獲得した。

12月24日から26日にかけて宇都宮市で行われた第34回全国高等学校弓道選抜大会に弓道部が女子団体に出場。

11月14日、15日に京都で行われた「Kenobo 花の甲子園2015」の全国大会に茶華道部の「六花仙」が出場。

11月15日、横浜市西公会堂で第19回高等学校文芸部誌コンクールが開催され、文芸部の発行する『群季』という部誌が「相鉄賞」を受賞。

第34回神奈川県高等学校総合文化祭・文芸コンクールへ詩作の部で、成見薫さん(1C)が高文連会長賞を受賞。

また、同コンクールへ小説の部で、溝渕佑さん(3B)が「群季」75号に掲載された「さよなら啄木」という作品で、佳作に入賞した。

11月28日に東京工芸大学で開かれた「東工大パイオものコン2015」でS研の出場チームが優勝を果たした。優勝チームの名は「Emotion」。

優秀高校生チーム賞も併せて受賞した。研究テーマは「寒天プラスチック」で、生分解性を持つプラスチックの生成を目指した。今回

過去5年間の主要大学合格者数

【現役・既卒の合計数 ()は既卒者】平成28年4月18日現在

学校名	28年春	27年春	26年春	25年春	24年春
国立					
京都	4 (1)		2 (1)	2 (2)	1 (0)
千葉	3 (1)	3 (0)	4 (0)	4 (3)	8 (1)
筑波	4 (1)	4 (1)	4 (1)	6 (1)	5 (1)
電気通信	3 (2)	2 (0)	4 (1)	2 (1)	3 (0)
東京	3 (0)	1 (0)	3 (1)	2 (1)	3 (0)
東京外国語	1 (0)	3 (0)	7 (1)	4 (0)	2 (0)
東京工業	6 (1)	5 (0)	6 (0)	10 (1)	5 (3)
東京農工	5 (3)	2 (0)	3 (1)	2 (0)	1 (0)
東北	7 (3)	7 (2)	2 (0)	3 (1)	1 (0)
一橋	5 (2)	2 (0)	5 (0)	2 (0)	1 (0)
横浜国立	16 (0)	21 (0)	12 (2)	20 (3)	17 (4)
国立計	78 (21)	86 (15)	77 (10)	80 (18)	72 (16)
公立					
首都大学東京	17 (0)	18 (1)	17 (2)	23 (5)	15 (2)
横浜市立	3 (0)	5 (1)	7 (0)	2 (0)	5 (0)
公立計	22 (0)	27 (3)	27 (2)	29 (6)	23 (2)
私立					
青山学院	60 (6)	76 (17)	54 (7)	72 (11)	63 (13)
神奈川	15 (0)	17 (6)	19 (3)	17 (3)	25 (14)
北里	17 (2)	18 (6)	24 (4)	20 (4)	16 (5)
慶応義塾	34 (5)	37 (4)	43 (3)	48 (11)	35 (6)
上智	37 (1)	32 (4)	34 (3)	55 (13)	24 (7)
専修	16 (5)	9 (3)	25 (2)	28 (8)	21 (8)
中央	100 (14)	76 (9)	64 (10)	78 (18)	62 (16)
東京理科	39 (14)	36 (11)	39 (13)	51 (9)	42 (11)
日本	52 (13)	42 (8)	39 (8)	32 (6)	27 (3)
日本女子	17 (2)	13 (4)	11 (0)	10 (1)	4 (1)
法政	77 (22)	76 (17)	61 (2)	56 (16)	46 (14)
明治	148 (31)	120 (16)	104 (24)	111 (24)	96 (23)
明治学院	25 (4)	23 (4)	42 (8)	43 (11)	43 (8)
立教	55 (7)	44 (6)	41 (2)	51 (7)	42 (11)
早稲田	83 (12)	78 (13)	71 (7)	101 (13)	94 (22)
私立計	1052 (187)	959 (198)	924 (137)	1059 (210)	880 (220)

最近5年間の進学状況

卒業生進路	28年高68回	27年高67回	26年高66回	25年高65回	24年高64回
国公立大学	73	67	81	76	69
私立大学	196	214	179	191	175
短大/大学院	0	2	2	1	3
専修学校等	0	2	0	0	1
進学者数計	269	285	262	268	249
入学率	75%	81%	83%	84%	78%
卒業生総数	355	351	315	319	319

事務局便り

は大学生と厚高生が成果を発表し合う場であり、そのなかで厚高生が優勝したのは快挙といえる。

事務局スタッフ8名に

学校情報らんで報告した通り、吉垣武先生(高39回)が異動され8名の校内役員で同窓会報の活動に協力していただくことになりました。8名の先生方の係り分担当は次の通りです。

- 事務局次長/須藤福治(高28回)
- 事務局総務/須藤福治
- 菅井久男(高31回)
- 計/三橋 功(高38回)
- 菅井尚子(高37回)
- 支部活動 支援基金/内野秀明(高30回)
- 松田浩幸(高54回)
- 同窓会名簿/谷田和久(高29回)
- 高橋祐有(高56回)
- 校歌祭/菅井久男
- 松田浩幸

支部会便り

相模原戸陵会

ハナモモが取り持つ 同窓生との交流

安藤 和次郎(高9回)

昨年「懐い出の杜に親しむ会」には念願のハナモモを植樹、愛川戸陵会の皆様には事前の準備から場所の選定、地ならし、穴掘り等大変お手数をかけ、心から感謝申し上げます。また懇親会場の愛川繊維会館では、大貫邦重副会長(高16回)が階下の繊維製造の過程等を説明して下さいるなど、重ねて感謝申し上げます。



「懐い出の杜」にハナモモを植樹した相模原戸陵会のメンバー

当日は相模原支部金子輝司会長(高15回)以下7名(女性2名)が相模原上溝駅前集合、三畑武一氏(高11回)運転のマイクログラスで現地入りしましたが、車中では加藤光男先輩(中37回)から戦時中、学校で使用する薪を学校林から肩に背負って徒歩で母校まで

運んだという話も聞かれました。特に今回は相模原の園芸試験場で30年前に研究改良された「照手ハナモモ」の苗木を懐い出の杜の一角に植樹することができました。当日既に地元愛川戸陵会八木一郎

会長(高14回)以下皆さんが作業着で活動し、大貫副会長を通じ植樹場所は出来る限り日当たりのいい平坦地を選んで頂き、8カ所の穴に2本ずつ、曾根秀敏同窓会長(高14回)以下各支部の皆さんが手分けし記念植樹をして頂いたものでした。相模原から持参した肥料をそれぞれ元肥として根元に谷川の水と共に入れ、最後に見回りをして、それぞれわが娘の如く、寒さに負けず無事に来年の開花を願ったものです。



総会では、参加者の自己紹介が恒例となっている

平塚戸陵会

平成27年度総会の報告

平成27年度総会を5月31日(日)平塚神奈中グランドホテルで開催同窓生20名の出席でした。

27年度総会は、渡辺兼行幹事長(高19回)の司会進行で始まり、落合重治会長(高13回)の挨拶があり、月本大洋議長(高21回)により議事が進められ、26年度事業報告、会計報告等承認されました。27年度事業計画について落合会長からは是非同窓生の参加が増えるよう全員で努力しようとなりました。懇親会に入り来賓のご挨拶を曾根秀敏同窓会長、佐藤信行校長にいただきました。

伊勢原戸陵会

よろいびとは

岩崎 勝(高8回)

大学卒業して鉄鋼会社に就職しましたが、この世界は意外とまだまだ開発すべき課題が多いことに気が付きました。そこで根っからモノづくりの好きな私は一つ世の中のために新しい商品を開発してやろうと言う気になりました。当時私は、変電所の変圧器などに使用される特殊な鉄鋼材料の製造技術や開発などを担当していました。この材料に必要な性能は使用中に自分の中で生ずる熱をいかに減らすか、また音や振動をどこまで減らせるかと言ったものでした。

この要求を満たすには従来の技術の延長線上では抜本的な改善は不可能と思ひ、あるヒントを元にこれまで全く考えられなかった方法を検討しました。ついに10年の歳月を費やしてやっと先の2つの要求を満たす新しい技術を生み出す事が出来ました。これは技術屋の本当の喜びでした。レーザー技術を使ったこの材料はその磁気的特性を著しく向上させたもので、後に大河内記念技術賞に輝きました。この製品は現在でも世界でトップクラスの品質を保ち、米、英、独、仏等に技術輸出されています。

一方、これらの仕事を終え、平成14年にほぼ40年ぶりに地元に戻ってきましたが、本当にうれしかったのは、厚高時代の仲間たちが温かく迎えてくれたことでした。地元に戻った時、まず厚高の仲間達が月1回の定例ウォーキングに誘ってくれました。14人前後で近隣各地の神社仏閣、美術館や文芸館・展覧会、時にはいろいろな

ハイキングコースや公園などを巡ります。2001年に故大矢純夫先生担任のクラスメイトを中心にスタートしたこのウォーキングも、昨年末の忘年会でついに140回を数えるまでになりました。現在では担当月に当たった幹事がある程度下見をして、本番のルートや立ち寄り箇所、見所、最後の反省会などの計画を立て参加者にメールで案内します。このメンバーは多士済々で、歴史や文学・写真・美術・技術等に詳しく、毎回の楽しい会話と同時に大変な勉強にもなっています。その日を締めくくると反省会はルー最終地点で催します。爺様や婆様のご目線が話に花が咲き、アールコールも気持ちよく頂いて楽しい一日を終わります。今では全員楽しいこの会を絶やさないよう200回達成を目指して頑張っています。



停年退職後、地元で同窓生のウォーキングに仲間入り

第2回となりました梨狩りは、8月23日茅ヶ崎市の三堀勝子さん(高24回)経営の三堀園で行いました。三堀ご夫妻から美味しい梨の見分け方を教えていただき、特に今年は幸水、豊水とも7月の暑さで甘味が充分で美味しく楽しい梨狩りが出来ました。その後全員で懇親会、ビール、焼酎を飲みお昼のお弁当がとて美味しかったおみやげの梨とぶどうを早く家族に食べさせた気持ちで家路に着きました。

秦野戸陵会

「3年間A組」の思い出

川口 真司(高24回)

私は3年間A組で男子クラスでした。秦野の田舎育ちの私はA組の同級生から大いに薫陶を受け、同級生達の言動が非常に眩しかったような気がします。

厚木の田舎育ちのくせに、兄弟の影響で東京のことをよく知っていたのは1年生の時でした。初めて新宿に行き、初めて地下鉄に乗ったのもこの時でした。電車が四谷で地上に出た時の眩しさを今でも覚えています。

この時観た映画はポール・ニューマン/ロバート・レッドフォード/キャサリン・ロスの「明日に向かって撃て」でした。洋画といえば小田原のオリオン座で「卒業」を見たことしかなかった私には、日比谷の封切り館で映画を見ることは夢のような出来事でした。

大いに感激した後、新宿「中村屋」でカリーを食べました。骨付きのチキン、大きいジャガイモ、そして粉チーズをかけて食べることをT君が教えてくれました。新宿駅では、先発待ちの列の横に並んで、次の電車に乗車することも教えてくれました。並んでいるにも関わらず座席の争奪戦があることにも田舎育ちの高校生には驚きでした。その後、通勤のために何十年も新宿駅から乗車しませんが、その時の私達のようなグループを見かけると、微笑ましく思えました。

修学旅行も楽しい思い出です。酒を飲んで先生に見つかり、これ

で修学旅行を中止すると脅かされ、10名位のクラスメートが名乗り出て「びんた」を貰うことで、修学旅行を続けさせてもらいました。今では大変なことです。卒業後の飲み会でも話題になる事件でした。宮崎交通のバスガイドさんに恋してしまっただけの純情な厚高生T君でした。

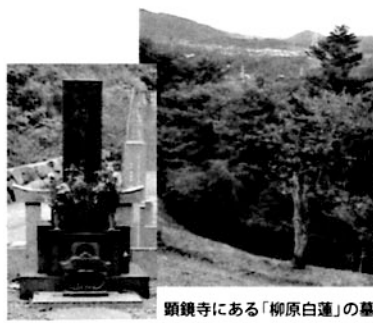
T君は手紙などを出していたらしく、そのバスガイドさんが厚木

津久井戸陵会

津久井に眠る熱き歌人「白蓮」

先頃迄、津久井戸陵会のひざもと相模原市緑区津久井地区、石老山登山口に在る真言宗の古刹顕鏡寺に、日々トレッキングならぬ墓参の訪問者が多勢押し寄せ、この静かな山間の地が時ならぬ喧騒におそわれるという「事件」が起きていた。

それは大方がご推察の通り、N



顕鏡寺にある「柳原白蓮」の墓

高校A組に日本人形を送ってきましく、そのバスガイドさんが厚木高校A組に日本人形を送ってきました。その間の「やりとり」は、本人たちには判りませんが、その人形をクラス担任のK先生が預かっていました。K先生が定年を迎えるに当たり、その人形の管理を秦野の同級生に託してくるという「おまけ」までついています。

大山登山も学年のイベントでありました。大山登山はヤビツ峠から登るのが小学生の頃からの習慣だったので、集合場所に行かず秦野出身のY君・M君とヤビツ峠から登り、同級生が到着するのを待っていました。

HKの朝の連ドラ「花子とアン」に登場し、熱き心と行動の女として強烈な印象を残した「白蓮れん」こと柳原白蓮(燦子)のこの眠りの地であることに所以し、この時をして一挙にその静かな眠りをも覚ます如き観光名所と化したというわけである。

そもそも何故にこの津久井の地にということであるが、かつて日清・日露の戦勝国時アジアからの留学生も多く、無論社会活動も活発な時代の中、況んや学生運動をやで、後の夫で東京帝大生の宮崎龍介が、殊に孫文を支援する活動家の父宮崎滔天の影響からも「極東学生会」を主催する早大生竹内直光と活動仲間であったことから、直光氏が世に言う「白蓮事件」に於いて、石炭王伊藤家からの白蓮の出奔を綿密な極秘計画によっ

携帯電話などなかった時代でしたがS君がボーイスカウトから輿交換をしながら大山登山を楽しんでおりました。やはり、K先生には秦野出身の高校生の軽いジョークを受け入れてもらえず、連帯行動を乱したとのことで「びんた」をいただきました。

3年間男子クラスでしたが、それなりに楽しい思い出を作らせていただきました。T君・S君はすでに鬼籍に入り我々の到着を待っているような気がします。今年も、同級生I君の店で男ばかりの新年会が予定されており、何度も聞いた昔話に花を咲かせます。

また晩年のエピソードとして、既に目が不自由になっていた白蓮が、夫妻で媒妁もした直光氏の子息の結婚の儀に際し歌を届けていた。いつまでも御健勝をお祈りします。

祝「えらばれし
千万の中の二人ゆえ
神の守りの
久しかれよと」
いかにも自身の運命と重ねつつも今の若き二人を祝い、行く先を祈つての白蓮の想いが伝わり、詠み姿が思い浮かぶようである。関心をもたれた方は一度お訪ねあれかし。
広報委員・菅野敬子(高18回)

愛川戸陵会

第7回「憶い出の杜」開催

山崎 明子(高15回)



初参加ながら、その盛況ぶりに感激

平成27年11月21日、平原の同窓

林「憶い出の杜」見学会続いて愛川織維会館にて懇親会が開催されました。愛川戸陵会の歴代の会長さん始め役員の方々ならぬご尽力に感謝すると共に、当日は遠方より我が愛川まで足を運んで下さった各地区戸陵会の皆様にも大変感謝です。当日は現厚木高校校長同窓会会長に加え、さくら戸陵会会長、他2名の女性の参加が有りました。出席者の中には旧制厚木中学卒業の方々もいて、御紹介の度に盛んな拍手がわき上がりしました。いつまでも御健勝をお祈りします。

失礼ながら山崎は初めての参加です。それというのも現会長・八木一郎さんの御指名により本年度から3名の女性幹事が誕生しました。「女性の力をもつて今まで以上に、町内の卒業生に声をかけ入会を勧めてください」との事。会の活動も、ただ飲んで談話の例会を少し変えたいとのこと。各地区戸陵会ではどんな取り組みを

写真の先生と生徒は、前年秋に厚木東高校から着任され、翌4月から私達3Aのクラスを担当され名前と顔もよくわからない状態で行った修学旅行での小島菊代先生と私です。もう1枚は文化祭での1コマです。沼田貞勇先生「サーちゃんと呼ばれていた先生が表装して下さった作品です。さて今とはというと、学校林を朝に夕に仰ぎ見、春の芽吹き、特に秋は朝日を浴びてキラキラ光る照葉に眺めせし間の今日この頃です。



筆者の厚高時代の思い出の写真

座間戸陵会

第28回総会で健康づくりを講演

幹事長 山本 まさる(高11回)

座間戸陵会(瀬戸宏孝会長・高4回)では、28回目になる定期総会を年6月21日に座間神社「すいめい」で開催しました。同窓会の落合重治副会長、厚木高校の佐藤信行学長、同窓会志村祐一事務局長にご出席いただき、盛大に開催できました。各氏からは、同窓会現状報告や、学校の活動状況等の報告をいただきました。

⑥臨床検査、⑦身近な民間薬、⑧健康茶機能別一覧表。資料をもとに講演がありました。その中で、必須アミノ酸には9種類あって食事でも摂取しないと体が維持できない事、他のアミノ酸は体の中でつくられるとか、また必須脂肪酸がないと悪玉のLDLが増え、肥満体となりメタボになりやすくなる。さらに、必須アミノ酸と必須脂肪

相模川クリーン作戦に参加

座間戸陵会会長 瀬戸 宏孝(高4回)

座間市では、私たちが日頃から親しんでいるふるさとの母なる川「相模川」をゴミのないきれいな河川にしようということで、「相模川クリーン推進運動」を市民ぐるみで展開しています。今回33回目の推進運動が9月6日に行われ、市内各種団体等から1800名もの多くの人が集まり、盛大に実施されました。

座間市戸陵会でも地域の活動に密着した活動を行うということで、今回初めて参加。当日11名の会員が新調した「座間市戸陵会」の幟のもとに集合し、約2時間行われた収集活動を行い、心地よい汗を流しました。

自転車や、古タイヤ等大型のゴミもあり、約4トンのゴミが収集された大きな成果を挙げることができました。終了後反省会で懇親を深め、相模川周囲の戸陵会が、各地区の美化運動に協賛することを期待して散会しました。



28回目を迎えた座間戸陵会総会



地域活動に協力する座間戸陵会の有志たち

海老名戸陵会

新しいまちづくり

山崎 日出雄(高26回)



発展著しい海老名駅西口地区

昨年の6月15日に海老名駅西口地区に新しいまち「海老名市扇町」が誕生しました。

現在、扇町地区では、海老名駅西口土地地区画整理事業を展開しています。「ららぽーと海老名」を始めホテル、マンション、アパート、保育園やテナントビルなど多くの施設が続々と誕生しています。区画整理事業が終了した後も持続した発展が必要であることから、

依知戸陵会

飛鳥田養先生を訪ねました

飛鳥田先生は平成6年、小田原高校の校長を最後に退職されましたが、若い頃に厚木高校の教諭を勤められ、なにより我が校の卒業生(高4回)でもあります。そこで近況を伺うと共に厚木高校の想い出についてもお聞きしたいと思

った次第です。ちなみに先生が厚高に在職されていたのは昭和38年から45年で、ちょうど筆者の高校時代と重なっておりますので「層親しみ深いものがありますので」層親しみ深いもの

のがあります。取材には近所にお住いで先生の教え子でもある同窓会副会長伊藤修治氏(高17回)にも同行していただきました。

現在先生は晴耕雨読、天気の良い日は畑に出て野菜作りに勤しんでおられるとのこと、穏やかな日々をお過ごしのように見えます。しかし、ちゃんと取材らしいことが出来たのはここまで。

話上手聞き上手のお二人なので談論風発佈いものなして、厚高応援団のこと、学園紛争の頃の想い出、難波先生、大矢先生、小島先生、森町先生等同僚の先生方のこと等々。しかしテーマから逸脱した話が次々と出て、あつという間に3時間が経ってしまいました。

これでは原稿が書けないので、先生が自費出版された『戸陵から



飛鳥田先生(左)と教え子の伊藤副会長

昨年の9月に「一般社団法人海老名扇町エリアマネジメント」を設立し、私が代表理事に就任いたしました。

同社団法人のまちづくりコンセプトは「広い空と雅な風 扇町」としました。「広い空」は都心からの通勤圏内にありながら見上げればほっとする自然があり、「雅な風」は洗練され華やかで上品な都市をイメージしました。海老名の育んできた歴史や文化を継承し、都市と自然が程良く調和し、新しい海老名の顔となるような海老名市「扇町」を創ってまいります。是非、戸陵会の皆様にもお越し願いたいと思います。

八幡山まで」という自伝・随筆集をお借りして参考にさせていただきました。この本にはとても興味深いエピソードが並んでいましたが、小田原高校時代のことを書いた章に気になる文章が。

小田高同窓会は「社会に貢献する同窓会を会是として活動していることである。……学校としてありがたいのは援助を惜しみなくしてくださるばかりで、紐付きがないことである。また、同期会も盛大で、この会からも援助をいただいている。学校には同窓会の誰かが常に来校され、私に助言や励ましの言葉を贈ってください。……学校運営に自信が持てるようになり、大いに勇気づけられた。したがって、同窓会の皆様の期待にこたえるべく、いやが上にも小田高のために惜しみない努力を尽くさざるを得なくなりました。」

あああ、ちよつと筆者には耳が痛いような話でした。 広報委員・大塚定男(高20回)

南毛利戸陵会

今岡院長が震災体験を講演

会長 神崎 愷(高13回)

南毛利戸陵会は平成13年、6回の事前協議を経て12月に設立総会を開催、他の地区戸陵会に先んじて創立された。厚木連合戸陵会がその翌年に設立されたことを見て同窓会において南毛利戸陵会が指導的役割を果たしてきたことは明らかである。以後3年に1度の役員改選を行い、昨年第6回目の新体制発足に至っています。

昨年2月22日にJAあつぎ南毛利支所2階ホールにて開催された総会は50名以上の出席を賜り、同窓会会長の曾根秀敏様、厚木連合戸陵会会長杉田泰繁様、さくら戸陵会長大井理恵子様、事務局の志村先生を来賓に、また後藤祐一氏も

これに加わっていただき盛会のうち開催することができました(写真)。

総会は、会計報告や会則の改定(現状に即した形に整備)、さらに次年度(27年度、29年度)の新役員の承認など定例の議案を可決しました。その後、今岡院長を開設して地元愛甲で医療に携わっておられる今岡千栄美先生(高28回)を講師に迎え「災害時医療―私たちが出来ること」のタイトルで、東日本大震災における今岡先生の体験に基づく講演が行われ参加者に深い感動を与えました。田南毛利は現在、南毛利小学校など6校に分割、中学校も南毛利



活動が支部会で一番活発と自負する南毛利

中学校など5校に分割。その分田南毛利地区に在住の厚木高校卒業生は地区戸陵会のうち最大数を抱えています。本年はあらたに医療関係の講演会(第1回最先端医療講演会)など、会員向けの活動に加えて、地区の発展の一助になることを願っています。

新たな船出へ

事務局長 八田 誠(高36回)

11月7日、大和駅前の北京飯店にて、佐藤信行校長をはじめ同窓会本部から曾根秀敏会長(高14回)伊藤修治副会長(高17回)、志村祐一事務局次長(高24回)、瀬戸宏孝座間戸陵会会長(高4回)、大矢正次理事(高14回)、大井理恵子さくら戸陵会会長(高18回)のご出席のもと、綾瀬戸陵会総会が開催されました。



新たな船出に意気込む綾瀬戸陵会

瀬市に居住されている同窓生751名に御案内を郵送(うち67名分が住所不在で戻る)。180名返

信中、出席者45名の総会となる。木藤延雄議長(高12回)により、近藤巨新会長(高14回)体制が満場一致で議決選出されました。引き続き懇親会に移り、テレビ放映された「校歌祭」ダイジェストを観ながら大いに歓談。途中駆け付けて下さったパトリック歌手森口賢二氏(高44回)のオーソレミーオとして校歌の生熱唱で会場は最高潮に。最後は全員で校歌を声高らかに手を振り上げ謳い、二次会または帰路へ音符を纏いながらの閉会となり、次回へ繋がる大盛会となりました。

平成28年度綾瀬戸陵会総会は、5月21日(土)17時「北京飯店」にて開催致します。

小鮎戸陵会

△綾瀬戸陵会の新役員▽
会長 近藤 亘(高14回)
副会長 見上 正信(高23回)
武藤 俊宏(高30回)



中から高へ、6年通った戸陵

加藤 國和(高3回)

私は昭和20年3月、愛甲郡厚木町立厚木国民学校6年を修了し、4月に神奈川県立厚木中学校に入學しました。当時は終戦(敗戦)4か月前のことです。「ガソリンの一滴は血の一滴」、「松根油」、「撃ち止まむ」、「欲しがりません勝つまでは」、「本土決戦」などの言葉が飛び交っていました。

3月10日の東京大空襲をはじめ日本全土に空襲が及び、沖繩では地上戦になっていました。厚木近辺では、相模湾からの艦砲射撃に備え、それを迎撃する砲台設置のため陣地構築が随所で進められていました。

5年で卒業することができました。その選択は個人の意志でできたので、同級生でありながら複数年に亘って卒業していきましました。ですから厚木高校卒業生名簿を見ると、高1回生と高2回生の卒業人数が他学年に比べ少なくなっています。

最後に是非ともこれだけは述べておきたいことがあります。それは校歌の歌詞についてです。私たちの入学した時は文末が「相州男児あわが友」でした。しかし、昭和25年4月、開校以来、初めてとなる女子生徒の入学がありました。その為、実態に即して「相州男児」が「相州健児」に変わりました。この変更は、至極当然だと思えますが、もう1箇所、3番歌詞の後段に気になる所があります。「尽くせし祖先の功は高し」の部分です。

私の記憶では「尽くせし祖先の遺芳は高し」でした。「遺芳」も広辞苑に載っていますし難解な言葉ではありません。むしろ全体的に文語調で書かれていている歌詞には、「遺芳」の方がなじみがあると思えます。またことばから受ける感じも、「功」は名譽・手柄などを意識したように思えますが、「遺芳」は、ひたむきに努力した結果残されたものという感じがあり、謙虚で奥深いことばだと思えます。私の勝手なノスタルジアかもしれませんが、「遺芳」のことばが好きです。

玉川・森の里戸陵会

地元の酒蔵見学に他支部も参加

去る2月6日に地元の黄金井酒造(株)の酒蔵見学と利き酒会、懇親会を開催。曾根秀敏同窓会長を



他の戸陵会からも“酒好き”が参加

始め、扶野、南毛利、睦合、綾瀬、秦野の各戸陵会からの参加者計22名で実施しました。

この「名門」の蔵元は、伝統を守りつつ、将来を見据えて新たな取り組みを打ち出しています。①地ビールの製造、②直営レストランの経営、③自社の社員を杜氏として育成するなど常に業界のトップをいっていると言えます。

酒蔵見学を通して、地元に着した醸造業、多くの手順、作業を経て酒を造っているということがよく分かりました。日本酒について理解も深まり、晩酌時にはより深まった味わいができることと思

います。懇親会では、4種類の銘柄の利き酒をはじめ旨い酒を飲みながら同窓生同士の会話が弾み、楽しい一時を過ごす事ができました。「やっぱり、同窓会はいいなあ」という思いがあらためて蘇ってきました。

広報委員・三橋敏司(高18回)

相川戸陵会

私の県立厚木中学校生活

鈴木 久昭(中41回)

昭和17年4月、国民学校6年を卒業して厚木中学に入学。この入学式には当時の永野校長よりお祝いの赤飯一折をいただいた。

1年生の授業で今までと変わった点は、配属将校による軍事教練が週3、4時間加わったことである。

昭和18年、2年生になると年2回、春の田植え時期と秋の収穫時期に、働き手を戦争にとられた農家に泊まり込みでの勤労奉仕が1週間くらいずつあった。泊まり込み先の衛生状態は悪く、食事に使

てない食べ物を買って食べたことであった。昭和19年(3年生)、敵国語の英語の授業は廃止され、軍需工場への勤労動員が始まった。私達は満の口(日本光学)へ派遣され、潜水艦の潜望鏡の部品製作に携わった。全員寮生活で、当時の大井町線緑ヶ丘駅近くの翠光寮で共同生活を

行った。使った工作機械はフライス盤(ミーリング盤ともいう)であった。戦況の悪化に伴い、グラマン戦闘機による機銃掃射が工場建屋に向かつて行われ、超低空での飛行機の爆音と機銃の音で得も言われぬ恐怖に襲われた。この学年勉強はなし。

昭和20年(4年生)、勤労動員は日本光学から相模原の陸軍造兵廠に移動となり、自宅から通うことになった。此処では旋盤を使って砲弾の薬きょうを製作した。内徑に切削する内ネジ切りが難しかった。砲弾の薬きょうを製作した。内徑に切削する内ネジ切りが難しかった。勤務中の空襲は構内に設けられた地下壕へ。昼間旋盤の仕事がないときは、本土決戦に備えて近くの松林の中で「たこつぼ」掘りを行った。

8月14日、軍の命令で「明日は自宅待機せよ」ということで8月15日の終戦を迎えた。4年生2学期から新体制での勉強は、今まで使用していた教科書の墨塗りから始まり、遅れを取り戻す勉強が始まった。昭和22年(5年生)、3月めでたく卒業と相成った。

関西戸陵会

総会開催とSSH研究発表会

事務局長 福本 豊(高28回)

関西2府4県に在住の厚木高校卒業生を対象とする「関西戸陵会」では、2015年度の行事として6月に第6回総会・同窓会を定例会場として大阪駅ビルのホテル公場で開催しました。

遠く東は滋賀県長浜市から、西は兵庫県姫路市から、南は和歌山県和歌山市からと、それぞれ移動には長時間を要するにも関わらず今回も多くの卒業生が出席されていることに、そしてなんと

も、86歳を迎える旧制中学卒業生から孫ほど月齢が離れている現役層まで、幅広い年齢の卒業生が一室に会していることに、あらため



SSH全国大会出場の後輩を激励に

さらに現校長の佐藤信行先生にもご多用の中、昨年に引き続き2年連続でご来賓いただき、厚高の活動状況として、高67回の卒業式では卒業生351名中女子が10名ほど男子より多かったが、4月入学の高70回370名は男子の方が40名くらい多く、1年から3年までどの学年も40名くらい男子が多くなっていること。その要因として平成25年度に文科省のSuper Science High School SSHの指定を受けたことで男子の志願者が増えたことと分析していること。結果として理系4クラス文系5クラス

入ったのが、今の3年生からは理系5クラス、文系4クラスに変化した等の興味深いお話がありました。

会は齊藤十内会長(高16回)のミニ講演、前長岡京市議大谷さんの活動報告、現役諸氏の活躍の話、大先輩からは戦中戦後の厚高の思い出、長寿の秘訣などが続いて3時間が瞬く間に過ぎ、最後は校歌を全員で高らかに歌い、高3回卒で同期の元クレージーキヤッツの安田伸さんとバンドを組んでいた斎藤康利さんの閉会の挨拶でお開きとなりました。

8月には、SSHの全国大会が大阪で200校が参加して大々的に開催され、母校厚高が研究発表を行うとの連絡を頂き、早速応援団を結成して手土産(関西限定のグリコ菓子とどん兵衛)を持参して会場に駆けつけ、現役生徒と佐藤校長以下先生方の激励を頂きました(写真参照)。

厚高の研究発表題目は「P-Ti2トロフェノールの生成過程における」というもので、参加者から高い評価を受けていました。優秀な後輩達が頑張っている姿を久々目の当たりにして厚高生のポテンシャルの高さを実感。お陰で応援団の慰労会は充足感で満たされ、暑さを吹き飛ばす格別のビールを堪能することが出来ました。遠方での同窓会維持には色々苦労はありますが、世話人・会員の協力をいただき、関西戸陵会を盛り上げていきたいと思っています。

今年も6月19日(日)午前11時に定例会場のホテルグランヴィア大阪で総会・同窓会を開催します。飛び入りでの出席は大歓迎です。TEL(06)6491-2727(福本)



古稀を迎える同期生の課題は、「孫」と「介護」

高17回

1000人越えの大盛況

同期会便り

足立 一彦

今年古稀を迎える我が高17回の同期会が、米国の大統領選挙と同じく五輪開催年の2月27日にレントンホテル厚木で開催されました。

当日は、小島菊代先生(中36回)、飛鳥田養先生(高4回)、高橋武彦先生(高8回)の各恩師(6人中お2人はご逝去、6人の恩師全員も同窓生というのは、永い歴史の中でこの時だけ)と101名(全体の3分の1)の同期の仲間の参加があり、北は北海道江別市や仙台市(2人)、南は山口県光市や滋賀県近江八幡市などからも駆けつけてくれました。

今回も当日配布の資料の中には、

欠席者からのメッセージ(68人分の近況等)を載せるなどの工夫も凝らしました。

そして、会を始める前に、全員で記念写真をパチリ!また、開会の冒頭に、昨年10月に秦野市で行われた「第10回青春かながわ校歌祭」のビデオ放映を行いました。皆さん画面に見入っていました。

会では、私が司会進行し、都高代表幹事(依知戸陵会会長)のあいさつ、出席していただいた恩師の先生からお一人ずつお言葉をいただいた後、伊藤修治同窓会副会長の乾杯の音頭で歓談に入りました。

卒業以来、初めて参加した人や久しぶりの人などとの楽しい交流の輪があらちちと出て来、旧友とのふれあいを深めると共に、宴席の中では「高校時代の懐かしい思い出」や「子や孫のこと」、果ては「介護やデイクア体験などの話」

も飛び出すなど、和気あいあいに楽しい雰囲気の中で、会は進みましました。

懇親会の最後の締めは、やはり校歌斉唱。今回は、当時応援団副団長だった内田五生君のリーダーイングで、全員肩を組んで「相州健児あゝわが友」を声高らかに熱唱。すっかり当時の「厚高生」に戻った気分でした。

閉会の言葉は、次回幹事クラスの代表幹事(依知戸陵会会長)のあいさつ、次回は4年後の再会を誓い合って散会となりましたが、その時は「人生の秋」を迎える年代になります。皆さん!それまでも元気で、また多くの方に出席いただくことを期待しています。

なお、散会後は、まだ話足りない多くの人がクラス毎に設定した二次会、三次会へと厚木の夜に繰り出し、久しぶりの交流を図っていました。

クラスずつ分かれて、私たちは座間町にある高座海軍工廠へ、あの半分は厚中の西隣にある厚木自動車部品へと動員され、それぞれお国のために仕事をしたのである。私は早朝、自転車で厚木駅(現本厚木駅)へ向かい、松蓮寺あたりで目の出を見た。海老名駅で相鉄線に乗り換えて1つ目の相模大塚駅で下車、茅の茂る原っぱを歩いて高座海軍工廠へ行く。仕事は米軍B29爆撃機の迎撃戦闘機「雷電」の部品作りであった。ジュラルミンを万力にはさみ、線引きどおりに鋸で削る作業の毎日。台湾の青少年も一緒に動員されていた。「八紘一宇」を看板に戦った日本だったが私たちは3年生の8月に敗戦の日を迎えてしまったのだ。翌年からわが国の教育制度が急変し、新制中学校と新制高等学校へと分かれて改革されたことは、先刻ご承知のことである。

当時を思い出さず、卒業証書を探し出してみたら「本校に於いて中学校の課程を卒業したことを証す。昭和23年3月1日厚木中学校長」とあり、68年前のことが昨日のことのように思い出されるのだ。

卒業後に厚中の思い出を語り合おうと1960年頃、初めての同期会を有志幹事のお骨折で厚木市内の料亭で開くはこびととなった。この折にこの同期会を今後も継続していこうと、全会一致で決めたように記憶している。幹事は県内を数地区に分けて、順番に担当す

る。そして、年間計画に入れておいた方が出席しやすいからと、毎年11月の第1土曜日に決めたと、以後同期会は連綿と続き、昨年は11月12日に厚木・伊勢原地区の会員10名が幹事となり相模大野駅構内にあるホテルで開催し、30余名の出席をえて盛況のうちに幕を閉じた。

私たちが厚木愛甲地区同期会は会員10名ほどだが、毎年何回か本厚木駅近くのレストランに集って地域の情報等を交換したりして絆を深めている。その折に、ただ飲食だけではおもしろみがないので、全員がそれぞれ得意とする分野の持ち味をきくことに意義があると提案があり、早速実践にふみきった。

トップバッターは小島千秋氏が受けてくれた。縄文・弥生時代を中心にした「考古学」の講話で、先人の知恵の重みを感じてきた。昨年は筆者の番で「植物よもやま話」の話をさせていただいた。本年の講師や講話の演題は未だ決まっていないが、その中味をとて楽しんでいく。

このように「私たちの同期会が長続きしているのはどうしてだろう」と話し合ったら、わが国が敗けるなんて考えられなかったこと、日本の教育制度の大改革の過渡期を過ごしたことなどが一因としてあげられるだろうと話した。卒業以来、物の考え方が大きく転換してしまい、これにともなう話題も多々複雑化したことで、想い出がいっぱい詰まっていることが仲間を強力にしているかもしれない。今後も身体が動く限り継続していきたいものだと思っ

高18回

青春グラフィティ 卒業50年記念祭

三橋 敬司

去る3月13日に高18回同期会が、厚木市内のレストランホテルを会場にして、卒業50年記念として71名が集まり、小島菊代先生(中36回)、佐藤敦先生(中42回)、小林正義先生(高7回)のご臨席を得て盛大に開催出来ました。

しばらく振りに顔を合わせると、時には名前を確認し合う場面もあり、思い出話が華が咲きました。当時のエピソードが語られたり、スポーツ大会での記録が読み上げられたりと、まさに「青春ク

ラフティ」を彷彿させる話題で盛り上がりました。更に、芸披露というところで、高橋力君の小品、小塩和己君、佐藤義春君、角田伊左雄君の詩吟、小島富司君の紙芝居見せ語り、沼澤英夫君の落語などが披露され、和気藹々の中で楽しい一時を過ごす事ができました。また、赤塚俊子さんによる「青春とは」の詩の朗読もあり、タイムスリップできた一コマもありました。

二次会は、会場を駅前のカフェ



50年前の思い出に花が咲いた

レストラン「ボン」に移して、46名がおしゃべりやカラオケで大いに盛り上がりました。

中42回



今も続く同窓の絆

花上 友彦(中42回)

私たち厚中第42回卒業生は、太平洋戦争でわが国が敗色濃厚になり、東京・横浜など大都市が大空襲に見舞われ、広島に新型爆弾(原爆のこと)が落下された。ニュースが報じられた時代の厚木中学生であった。政府はこの非常事態を憂慮して、国家総動員法により学徒動員制が施行。私たちは2年生の9月頃からだと思いが、中学生としての学業を止めて、学校を離れて工場勤務となった。

当時4クラスあって、半分の2

クラスずつ分かれて、私たちは座間町にある高座海軍工廠へ、あの半分は厚中の西隣にある厚木自動車部品へと動員され、それぞれお国のために仕事をしたのである。私は早朝、自転車で厚木駅(現本厚木駅)へ向かい、松蓮寺あたりで目の出を見た。海老名駅で相鉄線に乗り換えて1つ目の相模大塚駅で下車、茅の茂る原っぱを歩いて高座海軍工廠へ行く。仕事は米軍B29爆撃機の迎撃戦闘機「雷電」の部品作りであった。ジュラルミンを万力にはさみ、線引きどおりに鋸で削る作業の毎日。台湾の青少年も一緒に動員されていた。「八紘一宇」を看板に戦った日本だったが私たちは3年生の8月に敗戦の日を迎えてしまったのだ。翌年からわが国の教育制度が急変し、新制中学校と新制高等学校へと分かれて改革されたことは、先刻ご承知のことである。

当時を思い出さず、卒業証書を探し出してみたら「本校に於いて中学校の課程を卒業したことを証す。昭和23年3月1日厚木中学校長」とあり、68年前のことが昨日のことのように思い出されるのだ。

卒業後に厚中の思い出を語り合おうと1960年頃、初めての同期会を有志幹事のお骨折で厚木市内の料亭で開くはこびととなった。この折にこの同期会を今後も継続していこうと、全会一致で決めたように記憶している。幹事は県内を数地区に分けて、順番に担当す

る。そして、年間計画に入れておいた方が出席しやすいからと、毎年11月の第1土曜日に決めたと、以後同期会は連綿と続き、昨年は11月12日に厚木・伊勢原地区の会員10名が幹事となり相模大野駅構内にあるホテルで開催し、30余名の出席をえて盛況のうちに幕を閉じた。

私たちが厚木愛甲地区同期会は会員10名ほどだが、毎年何回か本厚木駅近くのレストランに集って地域の情報等を交換したりして絆を深めている。その折に、ただ飲食だけではおもしろみがないので、全員がそれぞれ得意とする分野の持ち味をきくことに意義があると提案があり、早速実践にふみきった。

トップバッターは小島千秋氏が受けてくれた。縄文・弥生時代を中心にした「考古学」の講話で、先人の知恵の重みを感じてきた。昨年は筆者の番で「植物よもやま話」の話をさせていただいた。本年の講師や講話の演題は未だ決まっていないが、その中味をとて楽しんでいく。

このように「私たちの同期会が長続きしているのはどうしてだろう」と話し合ったら、わが国が敗けるなんて考えられなかったこと、日本の教育制度の大改革の過渡期を過ごしたことなどが一因としてあげられるだろうと話した。卒業以来、物の考え方が大きく転換してしまい、これにともなう話題も多々複雑化したことで、想い出がいっぱい詰まっていることが仲間を強力にしているかもしれない。今後も身体が動く限り継続していきたいものだと思っ

同窓会本部役員・理事・支部役員

(平成28年4月1日現在)

【同窓会本部役員】

- 会長 曾根 秀敏 (高14)
副会長 足立原 泰 (高12)
副会長 落合 重治 (高13)
副会長 石射 隆宏 (高14)
副会長 伊藤 修治 (高17)
副会長 大井理恵子 (高18)
副会長 廣木 孝幸 (高19)
副会長 谷 茂 (高22)
監事 大貫 政一 (高17)
監事 大貫 睦男 (高17)

【同窓会本部事務局】

- 事務局長 石塚 修 (高28)
事務局次長 志村 祐一 (高24)
事務局次長 平賀 友子 (高35)
会計 水島 泉 (高29)
会計 長田 靖子 (高33)

【理事】

- 1 高橋 力 (高18)
2 高橋 昌和 (高27)
3 小林 義廣 (高18)
4 岡崎 雄二 (高15)
5 金子 輝司 (高15)
6 大矢 正次 (高14)
7 梅澤 文明 (高11)
8 町山 良行 (高11)
9 鶴指 眞澄 (高15)

【各地区同窓会支部】

- 1. 伊勢原戸陵会
会長 高橋 力 (高18)
事務局長 小川 均 (高22)
2. 薬野戸陵会
会長 谷 茂 (高22)
事務局長 松永 光弘 (高24)
3. 津久井戸陵会
支部長 奈良 雅之 (高8)
事務局長 小林 義廣 (高18)
4. 平塚戸陵会
会長 落合 重治 (高13)
幹事長 渡辺 兼行 (高19)
5. 横浜会
会長代行 長田 敬幸 (高7)
6. 相模原戸陵会
会長 金子 輝司 (高15)
事務局長 三沢 賢一 (高21)
7. 座間戸陵会
会長 瀬戸 宏孝 (高4)
事務局長 山本 愈 (高11)
8. 愛川戸陵会
会長 八木 一郎 (高14)
幹事長 熊坂 朝一 (高16)
9. 川崎市多摩麻生戸陵会
会長 町山 良行 (高11)
10. 綾瀬戸陵会
会長 近藤 亘 (高14)
事務局長 八田 誠 (高36)
11. 海老名戸陵会
会長 杉崎 秀夫 (高17)
事務局長 鶴指 眞澄 (高15)
12. 三浦半島戸陵会
会長 伊藤 学 (高30)
13. 大和戸陵会
会長 石川 創一 (高18)
事務局長 長田 靖子 (高33)
14. 藤沢戸陵会(旧御所見)
会長 泊瀬川 孚 (高14)
事務局長 大貫 睦男 (高17)

- 10 石川 創一 (高18)
11 泊瀬川 孚 (高14)
12 杉田 泰繁 (高14)
13 新川 勉 (高30)
14 都高 泉 (高17)
15 下川 信好 (高14)
16 剣持 典子 (高26)
17 伊藤 桂 (高16)
18 神崎 愷 (高13)
19 高橋 増次 (高11)
20 高橋 将 (高14)
21 石川 武久 (高16)
24 森久保 純生 (高16)
25 三平 明彦 (高14)
26 八田 誠 (高36)
27 伊藤 学 (高30)
28 星 博美 (高18)
29 齋藤 昌代 (高26)
30 山本 智子 (高28)
31 土屋 由子 (高32)
32 阿部 洋 (高22)
33 真崎 和秋 (高22)
34 今井 雅裕 (高26)
35 関野 俊之 (高28)
36 小川 均 (高22)
39 入澤 隆 (高16)

- 15. 厚木連合戸陵会
会長 杉田 泰繁 (高14)
幹事長 森久保 純生 (高16)
事務局長 平野 亮二 (高27)
① 厚木戸陵会
会長 足立原 強 (高16)
事務局長 池田 清 (高19)
② 依知戸陵会
会長 都高 泉 (高17)
事務局長 大塚 憲二 (高18)
③ 睦合戸陵会
会長 下川 信好 (高14)
事務局長 小島 勉 (高22)
④ 荻野戸陵会
会長 三平 明彦 (高14)
事務局長 伏見 清 (高18)
⑤ 小鮎戸陵会
会長 伊藤 桂 (高16)
事務局長 森久保 純生 (高16)
⑥ 南毛戸陵会
会長 神崎 愷 (高13)
事務局長 宗藤 崇 (高21)
⑦ 玉川・森の里戸陵会
会長 高橋 増次 (高11)
事務局長 山口 義章 (高15)
⑧ 相川戸陵会
会長 高橋 将 (高14)
事務局長 山口 正春 (高17)
16. 清川戸陵会
会長 石川 武久 (高16)
事務局長 相原 栄一 (高20)
17. 新潟戸陵会
会長 青木 茂治 (高9)
事務局長 齋藤 勝司 (高8)
18. 関西戸陵会
会長 齋藤 十内 (高16)
事務局長 福本 豊 (高28)
19. さくら戸陵会
会長 大井 理恵子 (高18)
事務局長 星 博美 (高18)



2000年10月31日、ヒマラヤ「アイランドピーク」登頂

藤沢戸陵会では、毎年5月4日に「東洋のマイアミ」の藤沢市片

藤沢戸陵会会長 泊瀬川 孚 (高14回)

健在なり、山岳部OB会

OB会便り

ここでは、私が所属している「山岳部OB会」を紹介したいと思います。私は、昭和34年4月に厚木高校に入學した。当時大学の山岳・ワンダーフォーゲル部では、しごき事件で揺れており、親は入部を反対していたが御所見出身の先輩、故小島克哉氏(高12回)の強力な勧誘と、山好きの兄の理解があった。親も納得してくれた。

山岳部では、丹沢で訓練を続け、毎年夏休みには北アルプス槍ヶ岳を中心とした真縦走を恒例にしていた。下った上高地では、羊羹を丸ごとほおぼったり、河童橋の下で釣りをした記憶が印象深い。卒業後は、OB会に所属した小森良章氏(高3回)が企画した全国の山歩きを恒例行事にして、多い時は25名ほどの参加があった。中でも、2000年には、ネパールヒマラヤの標高6189m「アイランドピーク」に登山チームを送り出した。総勢17名であった。10月31日9時55分、ついに山頂に立った。頂上アタック隊、写真左から安藤輝(高4回)、小森良章、濱田達弘(高12回)、梅澤弘一(高4回)それとシエルパの5名であった。

なお、計画には、元同窓会長小澤澄男氏(高3回)ほか多くの関係者の協力があり計画を実行することが出来た。最近では、OB会も高齢化が進み、温泉を中心にした計画でないに参加がなくなりつつある。最後に、現在活躍中の厚木高校山岳部OBの登山家横山勝丘(かつたか)氏(高50回)を紹介しておく。いつか同窓会で講演などしてほしいものだ。「横山氏は、8歳の時に父親に山に連れて行ってもらったのがきっかけで、山に憑かれ山岳部がある厚木高校を選んだとか。校歌にうたわれているように、山に近く、自宅から自転車を通える距離なども選んだ理由とか。アラスカ、ボリビア、パタゴニアなどの未踏峰を初登頂しており、年間240日ほどは何らかの山に登っているとのことである。」(山岳雑誌「岳人」から)

平成26~28年度 広報委員会委員

(平成28年4月1日現在)

Table with 5 columns: 役職, 氏名, 卒回, 所属戸陵会, 連絡先. Lists committee members and their contact information.